

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立古里中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	131	人	国語B	131	人
② 数学A	131	人	数学B	131	人
③ 理科	131	人			

5 留意事項

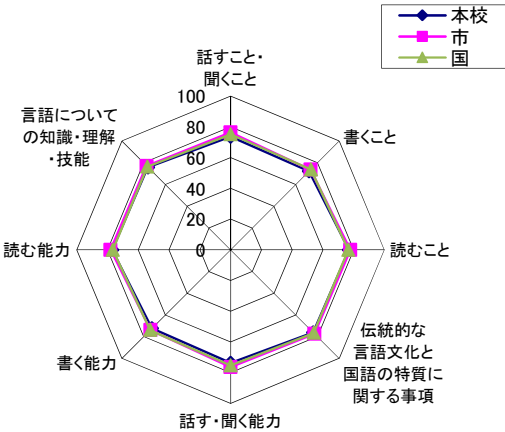
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立古里中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

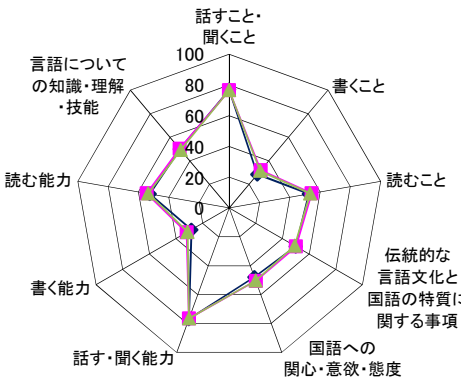
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	73.6	76.4	75.2
	書くこと	72.3	73.7	73.9
	読むこと	77.1	78.0	76.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.0	77.2	76.5
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	73.6	76.4	75.2
	書く能力	72.3	73.7	73.9
	読む能力	77.1	78.0	76.7
	言語についての知識・理解・技能	76.0	77.2	76.5



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	76.9	76.5	76.6
	書くこと	28.5	31.9	31.3
	読むこと	52.6	54.5	53.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	50.0	50.2	49.2
観点	国語への関心・意欲・態度	47.9	50.6	50.3
	話す・聞く能力	76.9	76.5	76.6
	書く能力	28.5	31.9	31.3
	読む能力	52.6	54.5	53.5
	言語についての知識・理解・技能	50.0	50.2	49.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

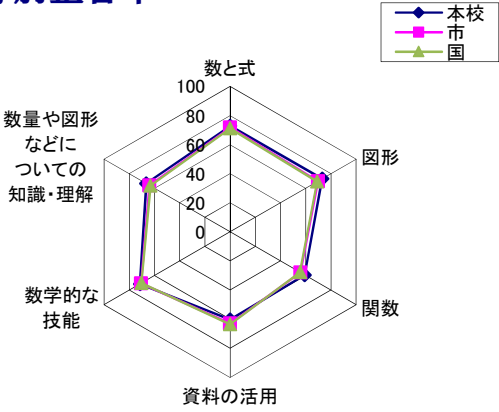
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○A「話の論理的な構成や展開などに注意して聞く」の正答率は県を3.9%、全国を4.1%上回り ○B「質問の意図を捉える」の正答率は県を5.7%、全国を6.3%上回っている。 ●A「話し合いの話題や方向を捉えて的確に話す」の正答率は県を7.1%、全国を8.1%下回っている。 ●B「全体と部分との関連に注意して相手の反応を踏まえながら話す」の正答率は県を2.5%、全国を3.1%下回っている。	・「話す・聞く」単元以外の授業でも、1対1、グループなど、様々な話し合いの形態を意図的に取り入れ、 ①聞き手に自分の考えが伝わるように(話す前に「書く」など)話す内容を整理して話すように指導していく。 ②聞き手の立場に立ってわかりやすく話すなど、【聞き手意識】をもって話すように指導していく。 ③話のポイントを整理してメモするなど、【話し手の意図】を正確に聞き取り、理解するように指導していく。
書くこと	○A「書くこととする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成する」の正答率は県や全国を2.5%上回っている。 ○B「相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く」の正答率は県や全国を0.8%上回っている。 ●A「伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように書く」の正答率は県を13.6%、全国を14.8%下回っている。 ●B「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く」の正答率は県を5.3%、全国を6.4%下回っている。	・【読み手意識】をもって文章を書くことができるように、「文章を書くために書く」だけではなく、話す前に「書く」ような場面を設定して【読み手意識】と【聞き手意識】をともに向上させる。 ・【書き手】の考えを正確に読み取り、文章の内容を整理してメモし、理解に役立てるような学習の場面を設定し、内容を整理することができるようにしていく。
読むこと	○A「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」の正答率は県を6.2%、全国を6.7%上回っている。 ○B「文章の構成や展開について自分の考えをもつ」の正答率は県を0.9%、全国を0.3%上回っている。 ●A「段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てる」の正答率は県を3.1%、全国を4%下回っている。 ●B「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く」の正答率は県を5.3%、全国を6.4%下回っている。	・【書き手】の考えを正確に読み取り、文章の内容を整理してメモし、理解に役立てるような学習の場面を設定し、内容を整理することができるようにしていく。 ・説明文では「接続語」「指示語」「段落の役割」「構成」など、小説では「場面」「情景や人物描写」「登場人物の言葉(台詞)」などに着目することが、【書き手】の主張や作品のテーマに迫れることに気づくことができるよう、指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○A「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く」の正答率は県を7.6%、全国を6.2%上回っている。 ○B「相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く」正答率が、全国よりも0.8ポイント上回っている。 ●A「漢字を書く」問題3問の平均正答率は県を8.4%、全国を10.6%下回っている。	・引き続き、「漢字の読み書き」「文法(文の成分・品詞)」「古典(歴史的仮名遣い)」などの知識や活用、伝統的な言語文化の理解を深めることができるように、問題集や資料集などを活用して定着度を上げていく。

宇都宮市立古里中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

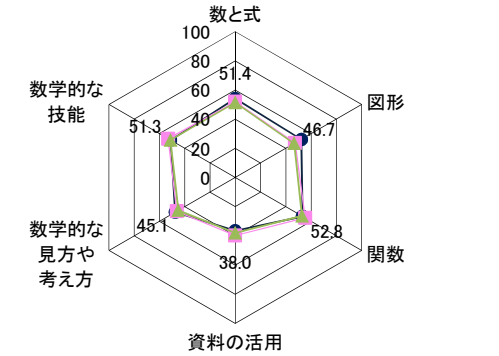
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	72.8	71.7	71.1
	図形	73.0	69.7	69.1
	関数	59.2	55.8	55.5
	資料の活用	60.2	62.9	63.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	71.5	70.6	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	66.5	64.0	63.3



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	54.2	52.0	51.4
	図形	52.3	47.3	46.7
	関数	53.3	55.4	52.8
	資料の活用	36.5	39.8	38.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	47.5	46.3	45.1
	数学的な技能	51.2	53.1	51.3
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

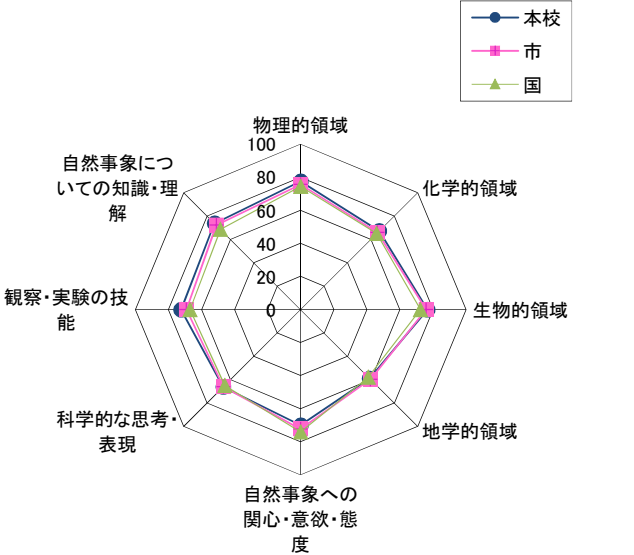
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○A 宇都宮市より正答率が1. 1%, 全国より1. 7%高い。 ○B 宇都宮市より2. 2%, 全国より2. 8%高い。 ●A 具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形する問題が、宇都宮市より1. 8%, 全国より5. 1%低い。	今後も、学習プリントの準備やワークの活用により、計算問題の反復練習を続け、計算力を高めていきたい。また、問題文を読む際に、線を引いたり図に表したりして問題の内容を理解することで、等しい関係や大小関係を的確にとらえ、文字を使って表す練習を、補充学習として扱っていく。
図形	○A 宇都宮市より正答率が3. 3%, 全国より3. 9%高い。 ○B 宇都宮市より5. 0%, 全国より5. 6%高い。 ●A 線対称な図形であり、点対称な図形でもある図形を選ぶ問題の正答率が、宇都宮市より5. 0%, 全国より4. 8%低い。	対称な図形や見取図に限らず、図形をどのように見るかは、図形の問題を考えるときの基本となることである。3年生がこれから学ぶ「相似」「円」「三平方の定理」の学習で、いろいろな見方ができる図形の問題を扱うことで、慣れさせていく。
関数	○A 宇都宮市より正答率が3. 4%, 全国より3. 7%高い。 ○B 全国より0. 5%高い。 ●A 比例 $y=ax$ における比例定数 a の意味を問う問題の正答率が、宇都宮市、全国ともに、やや低い。 ●B 事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを事象に即して解釈する問題が、宇都宮市より7. 0%, 全国より5. 3%低い。	関数に関する基本的な学習内容を、表、式、グラフを関連づけながら再確認させ、定着を図る。その際に、技能だけでなく、意味を正しく理解し活用できる力を身につけさせたい。そのために関数の学習では、身の回りの事象を関数的にとらえる課題を扱うようにし、表、式、グラフを用いて考えることのよさを味わえるように取り組ませる。
資料の活用	○A 資料の活用に関する4題のうち、3題の正答率は、宇都宮市、全国よりも高い数値になっている。 ●A 宇都宮市より正答率が2. 7%, 全国より3. 3%低い。多数回の試行の結果から得られる確率の意味を問う問題の正答率は、宇都宮市より14. 6%, 全国より15. 6%低い。 ●B 宇都宮市より正答率が3. 3%, 全国より1. 5%低い。与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理する問題の正答率は、宇都宮市より3. 7%, 全国より5. 7%低い。	過去に学習した内容を再確認する補充学習を行う。また、復習した数学的な表現や数値を用いて、資料を読み取ったり、傾向や予測をするなどの活用をする学習を多く扱っていく。

宇都宮市立古里中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物理的領域	77.6	75.7	74.4
	化学的領域	67.2	65.8	65.0
	生物的領域	76.7	75.9	72.5
	地学的領域	58.9	59.8	57.8
観点	自然事象への関心・意欲・態度	70.0	72.3	74.0
	科学的な思考・表現	66.2	66.0	64.9
	観察・実験の技能	72.3	69.1	67.0
	自然事象についての知識・理解	73.7	72.1	68.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物理的領域	○全国より3.2ポイント、市より1.9ポイント上回っている。 ●基礎的内容は身につけているが、データを読み取ることや、データを活用する力がまだ十分でない。	身近な現象や実験などを積極的に授業に取り入れることで、定着度を維持していきたい。また、実験で得られた結果から分かることを、自分の言葉で表現し、それを班で深める活動を通して、データを活用する力を養いたい。
化学的領域	○全国より4.2ポイント、市より1.4ポイント上回っている。 ●実験器具の取り扱いに関する知識がやや不十分である。 ●原子の記号を用いた物質の表し方が身につけていない。 ●課題を発見し、課題解決の方法を考える力が身につけていない。	実験器具の取り扱いについては、実際に体験する時間を大切にし、個別の指導を強化していく。また、課題をもとに実験方法を自分たちで考えさせたり、課題も発見できるような導入を工夫したりすることで、科学的な思考力を養っていきたい。
生物的領域	○全国より2.2ポイント、市より0.8ポイント上回っている。これは自然豊かな環境で育っており、自然に対する興味関心が強く、基礎基本・活用力が身につけているためと考えられる。	身近にある自然に目を向けさせ、普段目にしていることを科学的に捉えられるような授業展開を意識していく。
地学的領域	○全国より1.1ポイント上回っている。 ●市より0.9ポイント下回っている。 ●気象変化の原因となる気団についての知識が身につけていないため、データから気象変化の予想等が十分に行えていない。	実験による再現が難しい分野ではあるが、映像資料なども取り入れながらイメージを持たせる指導をしていく。新聞の気象データなどを活用し、日々の天気の変り変わりや気圧配置図の関連に重点を置くことで、データを見て予想する力を身に付けさせたい。

宇都宮市立古里中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○23の肯定、否定が確認できる質問のうち、20の質問において、肯定割合が全国平均より高い結果となっており、全体的に見て良好な結果であると言える。特に肯定の割合が高い質問は、(1)「自分には良いところがあると思いますか」12.8ポイント、(10)「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」12.8ポイント、(12)「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」24.2ポイント(19)「1, 2年までに受けた授業や課外活動…」11.4ポイント(21)「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」13.2ポイント、(22)「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」10.9ポイント、などでそれぞれ10ポイント以上高い結果となっている。また、「肯定の度合い」についても「そう思う」の回答で肯定している回答が多く、積極的に肯定していることが分かる。特に(2)「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」の質問に対しては、「そう思う」での肯定が全国平均より19.4ポイント高かったのをはじめ、(3)(5)(6)(11)(12)(21)の質問において全国平均より10ポイント以上高かった。

●課題としては質問(23)「地域や社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」(24)「地域の大人(学校や塾・習い事の先生を除く)に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか」(25)「新聞を読んでいますか」の質問に対しての肯定回答が全国平均以下であったことを踏まえ、具体的な方策を計画し、実行していく必要があると考えられる。

宇都宮市立古里中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
言語活動による思考力育成を目指した授業づくり	- 自分の考えを書いてまとめ、発表する活動を行う。 - 個々の考えを練り上げる活動を行う。	生徒質問紙で、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」に対する肯定割合が「73, 2ポイント」と全国平均より20パーセント程度高かった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語においては「話す」「聞く」「書く」といった部分で全国平均を下回った。	昨年に引き続き「言語活動による思考力育成を目指した授業づくり」に重点を置く必要があると考えられる。	- 授業中に基礎基本を確認させるとともに、宿題や小テスト、単元テスト等で習熟状況を確認する。 - これまで生徒に任せてきた家庭学習ノートの内容を、各教科で指示を出し、その中から選択する方法をとる。